

ひむか未来マイスター・ハイスクール事業

目標

- ・デジタル技術を活用した付加価値の高い商品開発やビジネスモデル変革を目指すこれからの地域産業界を担う人材の育成。
- ・予測困難な社会の変化にも主体的に対応できる資質・能力を有する人材の育成。
- ・地元企業のもつ技術力や存在意義などの魅力に触れ、自らもそうした企業で持続可能な地域や社会の実現に貢献しようとする態度の育成。

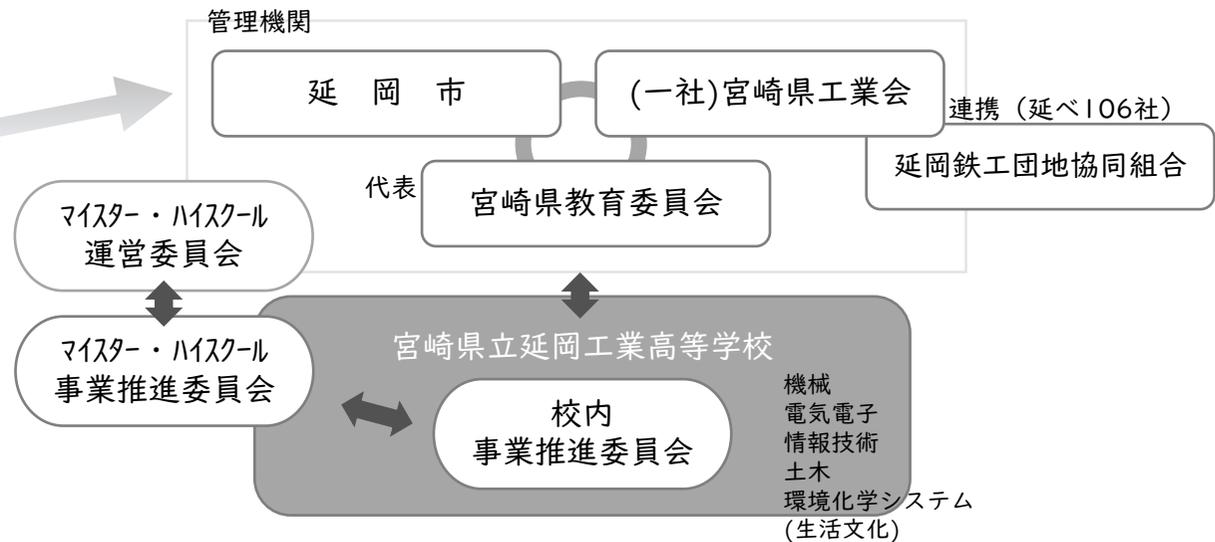
概要

高校段階での人材育成として、「ICTを活用したものづくり」に力点を置いたカリキュラム開発（機械科）からスタート。地域産業界等のニーズを踏まえながら他学科へ展開。長期的な人材育成の視点に立ち、高校内でエンLab（エンラボ）を新たに設置し、延岡市民のものづくりの拠点を目指す。

事業計画

| 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目以降 |
|---|---------------------------|----------------|-------|
| ※「ICTを活用したものづくり」に力点を置いたカリキュラム開発 機械科実習の充実 | 機械科実習の更なる充実 | 機械科実習新カリキュラム | |
| ニーズ調査 | 機械科以外の取組や大学等との連携の在り方などの検討 | (具体的な取組) | |
| エンLab環境整備 | エンLab環境整備・試験運用 | エンLab環境整備・本格運用 | |

実施体制



ひむか未来マイスター・ハイスクール事業

令和3年度より開始されている本事業では、管理者は地方自治体・産業界・学校設置者で構成されており、関係する事業も活用し、本事業の進行が図られている。人材育成の観点では、これまでも様々な取り組みが重ねられているが、本事業において、企業の変革の方向性や、どんな人材が必要となっていくのかということについて、議論と検討が深められ、取組に反映されてきている。また、本事業実行の中心を担うCEOと県教育委員会との意見交換の機会や、関係機関との連携を活用することで、本事業ならではの新しいシステムが進められており、地域や社会の健全で持続的な発展につながる地元企業での様々な学びが行われている。本年度においては、中間発表会を設定し、課題と成果の共有を図るとともに、県内工業系学校での取組に資するとともに、事業終了後となる令和6年度からの取組も視野に入れた連携強化を目指している。

| 業務項目 | 実施日程 | | | | | | | | | | | |
|-------------------|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| ○ 実習内容の見直し | | | | | | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① |
| ○ 産業実務家教員からの技術指導 | ② | | ② | | | ② | | ② | | ② | ② | ② |
| ○ 企業での実習 | | | | | | | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ |
| ○ 次年度に向けた年間計画の作成 | | | | | | | ④ | ④ | ④ | ④ | ④ | ④ |
| ○ エンL a bの環境整備・活用 | | ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ |



成果

- (1)企業や地元行政とこれまで以上に意見交換や連携を深めることができている。また、地域や関係機関の協力を得る形で、学校内の様々な教育活動に対するアドバイスをいただいている。
- (2)マイスター・ハイスクールCEOは昨年度より事業に参画いただいております。生徒へ情報リテラシーを高める指導、ものづくりに関する幅広い視点を多くの機会に伝えていただくなど、生徒・職員に対する情報発信に加え、企業視点での人材育成を伝えていただいている。
- (3)施設整備、実習項目検討を進めることができ、CAD検定、シーケンス制御等の技能検定の受験準備を進めており、次年度の生徒取得において、更なる環境整備を行うとともに、企業と連携した効果的な指導へつなげる。
- (4)エンL a bの整備や活用により、地域や社会の健全で持続的な発展につながる開かれた技術交流活動が開始されている。今後も工業高校ならではの特色を発信し、魅力ある学習内容を交えた活動を継続する。
- (5)小学生向けのものづくり教室の開催、多くの県民来場がある県工業教育フェアでのワークショップ実施では、生徒の主体的な活動、ICT活用による技術支援が行われた。エンL a bならではの開かれた環境の更なる充実化を図る。

課題

- (1)産業実務家教員による校内での技術指導の支援では、3年生の学習での指導をいただく形となっており、1、2年生での学びの接続を学校職員がフォローしつつ実社会で活用される技術を学べるようにする。
- (2)産業実務家教員の選定に苦勞している面があるが、関係団体と連携が図られ、様々な技術指導について提案をいただく機会が増えてきている。
- (3)地元就職率の3年後目標値を60%と設定しており、今年度実績は50.9%（昨年度は56.3%、一昨年度は50%）。
- (4)本事業に関係いただく企業数増に対して、安全に留意しつつ様々な技術指導や地元企業の魅力に触れる機会を設定し、関係委員会が後押しできる体制構築を図る。